令和５年度第３回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会　会議録

１　会 議 名　令和５年度第３回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会
２　開催日時　令和５年 12 月１日（金）　午後２時から午後３時 30 分まで
３　開催場所　一関市役所２階　大会議室Ａ
４　出 席 者
⑴　委　員　石川加津子委員、大浪友子委員、小野寺悦子委員、金澤英治委員、児玉進委員、佐々木牧恵委員、菅原清忠委員、鈴木和博委員、須田志優委員、立尾英司委員、徳谷喜久子委員、鳥畑清委員、南洞法玲委員、畠中良之委員、山平功二委員
※オンライン参加　須田志優　委員
※欠席者 岩渕豊子委員、小田島達哉委員、栗生澤奈生子委員、佐藤一則委員、菅原敏委員
⑵　オブザーバー
※欠席者　松本英雄平泉町まちづくり推進課長、髙橋麻美平泉町まちづくり推進課長補佐
⑶　事務局　菅原稔市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
５　議　　題
⑴　第３次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの素案について
⑵　第３次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定までのスケジュールについて
６　公開、非公開の別　公開
７　傍聴者の数　１人
８　会長挨拶
本日から第３次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの検討に入るが、資料のとおり、2024 年度から 2028 年度までの５年間の新しい第３次定住自立圏共生ビジョンを皆様と共に考えていくこととなる。事務局が作った資料を読むと、「委員の皆様からのご意見を反映」という言葉が書いてある。
ご意見をいただかなければ反映はできないため、たくさんのご意見をいただくことをお願いして、挨拶とさせていただく。
９　審議内容

⑴　第３次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの素案について

資料№.１、資料№.２、資料№.３に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委　員　国立社会保障・人口問題研究所の統計を基に記載するということで、年齢３区分は出さざるを得ないと思うが、既に 65 歳以上の方が実質的に地域の戦力になっていると思う。老年人口をできるだけ減らすというスタンスだけではなく、老年人口の有効活用や老年の方に頑張っていただくというものも検討してはどうか。

委　員　資料№.１の５ページに、圏域の推計人口と展望人口という言葉があるが、この意味を教えていただきたい。関連して、資料№.２の３ページに高齢化率の目標という言葉があるが、高齢化率は年々上昇するものと思うが、高齢化率の目標は変更することができるのか。

事務局　推計人口については、資料№.１の３ページの（１）将来推計人口に記載しているが、国立社会保障・人口問題研究所が推計した人口である。展望人口については、一関市、平泉町が作成している人口ビジョンがあり、様々な取組を行うことで人口減少を抑制し、将来の展望を行った人口である。資料№.１の５ページの図では、オレンジ色の線が圏域の展望人口で、水色の点線が圏域の推計人口である。

高齢化率の目標については、資料№.１の３ページの（１）将来推計人口の表に記載しているが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 22 年には 65 歳以上の人口が 45.39％になると推計されているが、資料№.１の５ページの表のとおり、圏域の取組により０歳から 14 歳まで、15 歳から 64 歳までの人口を増やすことにより、令和 22 年には 65 歳以上の人口を 40％程度に抑えていきたいというものである。

委　員　資料№.２の２ページ、圏域の将来像に、「郷土の誇りを育み、住み続けていきたいと思える一関・平泉定住自立圏の形成を目標とする」という文言があるが、このとおりであると思うので、この視座に基づくことが大事と思う。

人口推計がインターネットなどに出ているが、2065 年の人口は３割程度の減で７万 7,000 人位であったと思うが、減少することは間違いなく、人口としてのリソースは限られてくる中で、住み続けていきたいという地域を作っていくためには、今までどおりの取組では限界

がきている。

資料№１の 15 ページ、観光地間二次交通整備事業の成果指標について、バス乗車人数としており、人数はもちろん大事であるが、バス事業者が一番気にするのはバス乗車効率であると思う。

現在が何名で何名を目標とするかということは大事であるが、人口が減っていく中で目標の乗車効率を守れるか、乗車人数を守れるかというのは非常に不透明なところもある。現在、千厩地域では千厩駅までオンデマンド交通を行っていると思うが、一ノ関駅までのオンデマンド交通も視野に入れていかなければ、持続できないのではないかと思う。

資料№１の 17 ページ、一関・平泉バルーンフェスティバル事業について、関係人口拡大と書かれているが、現在の関係人口は測定しているのか。また、関係人口の拡大を図ると書かれているが、本当にそのためにやっているのか疑問に思っている。

資料№１の 20 ページ、地産外商促進事業の成果指標について、イベントの新規参加者と書かれているが、首都圏などの有力な飲食店への地場産品のセールスやプロモーションを行っているか確認したい。

資料№１の 29 ページについて、世界遺産拡張登録がゴールであるのか、例えば、骨寺村荘園遺跡であれば、景観や水路の取組を持続させていくことがゴールであるのか。後者であれば、世界遺産拡張登録というのはあくまでも通過点であり、非常に難易度が高いと思う。効率の悪い田や畑で生産されたものの価値をいかに高くしていくか、後継者をどのように育てていくか、豊かな地域にしていくかということが大事なことであると思っており、世界遺産拡張登録の目標ばかりが目につくので、イベントとシンボリックなものに特化しすぎていると思う。

住み続けていきたい地域の形成を視座とするのであれば、限られたリソースの中で、非常にもったいないことをしているという印象がある。

会　長　お題目のイベントなどではなく、住んでいる方に意義のあることを行うということが根本にある質問であると思うが、前段の部分に関してはご意見として承る。

資料№１の 17 ページ、一関・平泉バルーンフェスティバル事業の

関係人口の測定について、回答は可能か。

事務局　確認してから回答する。

会　長　成果指標がバルーンフェスティバルの来場者数となっていることから、精査をお願いする。地産外商促進事業について、事務局から回答をお願いする。

事務局　地産外商促進事業について、年に数回、首都圏の商談会に参加する取組を行っている。新規イベントの参加者のみではなく、売込みや商品の新規開拓という面に取り組んでいる状況である。

会　長　次に資料№.１の 29 ページについて、世界遺産拡張登録推薦から外れたものがあるわけだが、骨寺村荘園遺跡等について、世界遺産拡張登録を目指し続けるのか、独自の価値を追い求めていくのかという質問であると思うが、事務局から回答をお願いする。

事務局　資料№.１の 29 ページの施策については、仮称ではあるが世界遺産価値向上推進事業という名称に変更している。この考え方は、構成資産として推薦する資産を県で決定したということで、骨寺村荘園遺跡については、世界遺産の構成資産となるべく調査研究を実施してきたが、世界遺産拡張登録を諦めたというものではなく、今まで取り組んできた景観保全などの部分について、継続して実施し価値を向上させていくという意味を含めて事業を展開していきたいという現時点の案であり、今後ブラッシュアップしていきたい。

委　員　一関・平泉バルーンフェスティバル事業について、税金の投入よりも人の関わり方がもったいないと感じている。パワーを使うので、目的がはっきりしないものはやめたらどうか、目的をはっきりさせてほしいというのが私の意見である。

骨寺村荘園遺跡について、教育委員会が所管していると思うが、地域を豊かに、稼ぐ地域にするという発想ができていない。ここを政策企画課がリードし、観光物産課と連動させ、稼げる地域にしていかないと後継者不足のため、10 年 20 年すると荒れ地になってくる。稼げる地域にするためにはどうしたらいいか、というものを指標に盛り込む方がいいと思う。

会　長　貴重な意見であり、特に骨寺村荘園遺跡に関してはそのとおりだと思う。

委　員　一関・平泉バルーンフェスティバル事業に関して、関係人口の拡大

という話があったが、これは発着地点や関係者が宿泊している施設に行かなければわからない。特に発着地点については、特定のチームのファンになり追っかけをしている人が関係人口に繋がっていると思う。そういったものが、この一関・平泉バルーンフェスティバル事業での関係人口の拡大ではないかと思う。

委　員　資料№１の９ページ、地域医療確保対策事業について、協定では一関市と平泉町の両市町で取組を行うものとなっているが、具体的な取組では平泉町の名前がなく、一関市だけで事業を行うというものになっているが、この点について教えていただきたい。

事務局　地域医療確保対策事業ついて、関係市町が一関市だけというのは第２次共生ビジョンからであり、実際に事業を計上しているのは一関市のみという現状となっている。ご指摘のとおり協定では、平泉町にも役割があり、医師などの確保に向けた取組を推進するとあるので、こちらについては検討する必要があると考えている。

委　員　資料№１の 14 ページ、世界遺産「平泉」を核とした観光地域づくり事業が削除されている。理由は地域おこし協力隊の任期が終了したことによるということであるが、この事業を引き継ぎ、実施できないものか。

来年から中尊寺の 900 年事業が進んでいくが、それに対する活動を引き続き行う方がいいと思うが、どのように考えているか。中尊寺の 900 年事業に関して、受け入れる側の体制が整備されていなければ、来ていただいたお客様に満足していただけないため、何かしらの対策や対応は必要であると思う。

事務局　世界遺産「平泉」を核とした観光地域づくり事業については、現時点での案ということもあり、引き続き検討したい。

中尊寺の 900 年事業については、受入れ体制の整備について検討したい。

委　員　ワーケーション推進事業はコロナ禍ということもあり、おそらく成果を見いだしにくかったのだと思う。

実証実験の具体的な方針や、想定も難しかったのではないかと思うので中止という形にしていると思うが、やってきたことは無駄ではないと思う。実証されたことを今後に生かすことが大事であると思う。

会　長　文化と地域資源を生かした観光の振興というお題目は終わった。事

業を削除するというわけにはいかないので、ご意見として、事務局の方で検討していただきたい。

委　員　資料№.３の見方についての確認であるが、懇談会において委員が出した質問などに対する回答として、指標の見直しや、指標の考え方について検討すると書かれているが、資料№.１に反映されているか確認したい。具体的には、資料№.１の 34 ページ、協働のまちづくり事業についてであるが、これから検討されるということか。

事務局　協働のまちづくり事業については、検討中であり資料№.１には反映できていない。

委　員　産業について、良質な雇用と良質な職場の両方を確保しなければならないが、工業振興戦略と定住自立圏の両方でやっていただきたいと思っている。一関市は、高校生の人口が多いが高校卒業後に減少し、帰ってきていない状況であるので、若者のＵターンやＩターン支援を盛り込んでいただきたい。

会　長　定住自立圏共生ビジョンで実施する事業と、他の計画に基づいて実施する事業についての関連性に関する質問であると思うが、事務局から回答は可能か。

事務局　各市町には総合計画があり、それを受けて工業振興計画のような企業誘致や産業振興に関する個別の計画を策定している。

一関・平泉定住自立圏共生ビジョンについては、次期総合計画を策定する前に策定しなければならず、現在の市町の総合計画を受けて策定するが、社会情勢の変化などにより新たな施策を実施しているので、産業振興については取り組んでいくというのが基本的な考え方である。

委　員　資料№.１の 14 ページ、世界遺産「平泉」を核とした観光地域づくり事業について、住民や旅行者が豊かさを感じられる持続可能な観光地作りを推進するというのは、市町の観光における永遠のテーマである。

ワーケーション推進事業に関しては、事業を削除するということだが、市町には観光協会が２つあるので、観光協会への事業の委託やＤＭＯと連携して事業を再考し、事業を実施するといいと思う。

資料№.１の 15 ページ、観光地間二次交通整備事業について、これは猊鼻渓平泉線のことだと思うが、以前は厳美渓平泉線もあった。外

国人観光客には達谷窟なども注目されているので、二次交通の整備に力を入れていただきたい。

オンデマンド交通の話もあったが、バスを使うのは非常にロスが大きいので、タクシーを使うという手も含めて工夫をしてほしい。

会　長　14ページのワーケーション推進事業を削除するのはいいと思うが、文化と地域資源を生かした観光の振興について、事業を考えなければならないというご意見と受け止める。

委　員　資料№.１の 25 ページ、将来世代の人材育成事業について、取組内容に社会を生き抜く力を身に付けるため中学生の社会体験学習を実施するとあるが、そのような意味合いでやっているものか確認したい。

成果指標について、事業に参加した生徒のうち、将来の夢や目標を持っている生徒の割合となっているが、現状値が 79％であり、育成事業の成果指標として見合っていないのではないか。

中学生英語の森キャンプ事業や、最先端科学技術体験研修事業について、年に１回の実施ではなく、定期的に取組を行っていただきたい。

資料№.１の 27 ページ、学術・スポーツ振興事業について、事業費が少ないのが残念である。

会　長　意見について、教育委員会に伝えていただきたい。

委　員　学術・スポーツ振興事業について、要件の学校単位もしくは団体単位で１チーム 100 人以上参加というのは現実的ではない制度である。要件を 30 名程度にすればいいのではないかと思う。特に一関市では、フェンシングや卓球などの大会を誘致しようとすれば、それが生かせると思うので、検討していただきたい。

会　長　意見について、関係課に伝えていただきたい。

⑵　第３次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定までのスケジュールについて

資料№.４に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

会　長　今の説明に限らず、全体について意見をいただきたい。

委　員　資料№.１の５ページ、圏域の推計人口と展望人口の比較について、推計人口は国立社会保障・人口問題研究所のデータを基にしており、展望人口は、それに様々な要素や政策を加えて展望しているということだが、推計人口よりも展望人口の方が下がっているという点はどのように理解すればよいか。

事務局　推計人口のよりも展望人口が下がっている理由は、将来推計人口は、

平成 27 年度の国勢調査を基に国立社会保障・人口問題研究所が作成し平成 30 年３月に公表されたもので、将来展望人口は、令和２年に改定をしており、最新のデータを使っているためこのような差が出ている。

将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所が今年度もしくは来年度に最新のデータを公表する予定であり、公表され次第修正する。

委　員　資料№３の２ページの⑪について、委員の発言で世界遺産は手段なのか目的なのかというものがあったが、世界遺産登録は通過点である。岩手県には世界遺産が２つあることから、これを生かしていくことが大事と思う。

高等教育機関の充実、四年制大学については、総合大学ということではなく、文化や歴史を絡め、研究所あるいは歴史学部や観光学部の受入れについての取組が必要と思う。

委　員　資料№１の 15 ページ、観光地間二次交通整備事業について、一関市と平泉町が一緒にやらないとできない事業だと思うので、ぜひ形にしていただきたい。

委員の発言にオンデマンド交通というものがあったが、観光客のみを目的とすると需要に不安がある。高齢化社会において、お年寄りの足も含め、観光客も取り入れられる交通手段として実現できると思うので、ぜひ形にしていただきたい。

10　担当課　市長公室政策企画課